

平成10年度 国民健康保険医療費マップについて

1. 実績医療費

実績医療費を都道府県別にみると最高と最低に約1.8倍の地域差

- 平成10年度の国保被保険者1人当たり医療費の実績値（全国平均354千円）を都道府県ごとにみると、高い都道府県は、山口県（478千円）、北海道（472千円）、高知県（466千円）などであり、低い都道府県は千葉県（267千円）、沖縄県（267千円）、埼玉県（275千円）などである。近年、縮小の傾向にあるものの、なお、最高と最低の間には、約1.8倍の差がある。

市町村別では約5.1倍

- 個別の市町村ごとにみると、高い市町村は本川村^{ほんがわむら}（高知県・778千円）、神恵内村^{かみえないむら}（北海道・690千円）、高島町^{たかしまちよう}（長崎県・685千円）などであり、低い市町村は小笠原村^{おがさわらむら}（東京都・154千円）、海上町^{うなかみまち}（千葉県・181千円）、桧枝岐村^{ひのえまたむら}（福島県・192千円）などである。なお、最高と最低の間には約5.1倍の差がある。

2次医療圏別では約2.9倍

- 2次医療圏別にみると、高い医療圏は中空知^{なかそらち}（北海道・579千円）、後志^{しりべし}（北海道・572千円）、伊佐^{いさ}（鹿児島県・568千円）などであり、低い医療圏は八重山^{やえやま}（沖縄県・199千円）、中部^{ちゅうぶ}（沖縄県・243千円）、東部^{とうぶ}（埼玉県・244千円）などである。近年、縮小の傾向にあるものの、なお、最高と最低の間には約2.9倍の差がある。

2. 地域差指数

地域差指数を都道府県別にみると最高と最低に約1.5倍の地域差

- 次に、年齢構成以外の要因による医療費の高低の尺度である地域差指数（各市町村の実績の給付費及び老人保健医療費拠出金の合計額の基準給付費に対する比率。退職者を除く。）を都道府県ごとにみると、高い都道府県は北海道（1.271）、福岡県（1.238）、徳島県（1.211）などであり、低い都道府県は千葉県（0.828）、長野県（0.838）、山形県・茨城県・静岡県（0.868）などである。近年、縮小の傾向にあるものの、なお、最高と最低の間には約1.5倍の差がある。

市町村別では約3.4倍

- 個別の市町村でみると、高い市町村は本川村（高知県・1.722）、赤平市（北海道・1.689）、渡名喜村（沖縄県・1.657）などであり、低い市町村は丹波山村（山梨県・0.510）、知夫村（島根県・0.581）、富山村（愛知県・0.590）などである。なお、最高と最低の間には約3.4倍の差がある。
- 地域差指数が1.2を超える市町村は、3,245市町村のうち236市町村で、昨年より6減少している。

2次医療圏別では約1.9倍

- 2次医療圏別にみると、高い医療圏は札幌（北海道・1.430）、中空知（北海道・1.395）、後志（北海道・1.392）などであり、低い医療圏は島しょ（東京都・0.751）、八重山（沖縄県・0.755）、香取海匝（千葉県・0.765）などである。近年、縮小の傾向にあるものの、また、最高と最低の間には約1.9倍の差がある。
- 地域差指数が1.2を超える2次医療圏は、357医療圏のうち33医療圏である。